

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103920
法人名	社会福祉法人 陵風会
事業所名	グループホーム西谷山
所在地	鹿児島県鹿児島市上福元町5604番地 (電話) 099-260-1343
自己評価作成日	令和3年10月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活において、明るい家庭的な雰囲気の中で、日常生活のお世話及び生活リハビリを行うことにより、利用者様がその有する能力に応じた生活ができるよう、明るい笑顔の絶えない雰囲気作りを理念において運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿児島市谷山地区の中心部から少し離れているが、近隣には大きな商業施設やコンビニ、自動車教習所等がある住宅地で、周囲には多数の田畑が見られるのどかな利便性の良い環境に位置している。建物は木目調で温かみを感じられ、家庭的な雰囲気の中で利用者の思いを大切に、楽しく過ごせるように理念を意識して支援に取り組んでいる。

管理者は、日頃から職員間の信頼・協力関係を大切に働きやすい職場環境づくりに努めており、コミュニケーションを密に図りながら意向の把握に努め、ゆとりを持って利用者中心のケアとなるように取り組んでいる。現在はコロナ禍で様々な行事が中止となっているが、職員や利用者の思いや意向に寄り添い、可能な限りストレスを最小限に抑え、利用者の安全を第一に確保しつつ、安心と笑顔あふれる楽しい生活が送れるように支援している。

利用者にとって楽しみとなっている食事は、職員と利用者が協力しあいながら、ホームの敷地内にある家庭菜園や枇杷の木の収穫を楽しんだり、地域からの差し入れも活用して毎食各ユニットで調理し、職員と利用者が共に同じものを一緒に食べて交流している。利用者の身体状態に対応して刻み食やとろみ食も提供され、外食ができない現在であるからこそ、行事食や店から購入したものを楽しく食べる機会を設けるなど、食事を楽しむ工夫がなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時理念を唱和し共有。理念を理解し実践している。	家庭的な雰囲気の中で利用者の思いを大切に楽しく過ごせるように、という開設当初からの理念を法人の運営方針と共に玄関や事務所に掲示し、毎朝朝礼時に唱和している。理念は職員会議や日頃のケアの中で振り返り、実践に繋がられるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているがコロナ禍で出来ていない。	町内会に加入して地域との交流を深めたいと考えているが、地域から野菜等の差し入れをもらう以外、現在はコロナ禍で殆どの交流ができていない。今後もホームの実情や現状の理解を深めるために、職員が地域の方々と積極的に触れ合う機会を設け、交流を図る予定である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	学生の職場体験を受け入れていたがコロナ禍で出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者の指導のもと行い職員会議棟で情報を共有しサービス向上に活かしている。	現在はコロナの影響で会議は開催できていない。ホーム内では職員会議やミーティング等で現状や問題点について意見交換して検討しているが、これまでの会議の参加者に対して書面等による報告は行われていないことから、今後は定期的に書面報告等を行い、サービスの向上に反映させていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から協力関係を築き連携を取り組んでいる。	現在は市介護保険課の担当者とは全て電話対応となっているが、相談や助言・指導にはすぐに対応が得られ、生活保護受給者には生活保護課の職員が関わるなど、日頃から互いに良好な協力関係を築いている。市や地区の協議会主催の研修会は実施されていないが、リモート等により参加して情報をもらいながらサービスの向上に繋げていきたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスにて確認しあい身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止マニュアル」に基づき、特に言葉は敬語を使うように心がけ、居室は原則として施錠しないケアに取り組んでいるが、現在は外部からの感染予防のために日中玄関は施錠している。身体拘束の事例はこれまでもないが、廃止委員会は3か月毎に開催している。年3回は勉強会を実施して職員の認識を深め、利用者にとって威圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受け学び虐待が見過ごされる事がないように注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が感じられた時の為に制度の理解を持ち活用につなげたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居前に不安や疑問がないように説明して納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面会時に意見要望を聞いた場合は管理者に報告し職員と共有しカンファレンス等で話し合っている。	利用者の意見・要望等は日頃のケアの中で仕草や見守り等から把握に努め、家族とは5分程度の面会時や緊急時の通院の結果報告等の際に気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。職員間では会議や申し送りノート等により内容を共有して運営に反映させ、家族には毎月のホーム便り等により対応や報告ができるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝礼、カンファレンス等で意見交換している。	管理者は日頃から職場の信頼・協力関係を大切に働きやすい職場環境作りに努めており、朝礼・職員会議・年1回の法人管理者による個別面談等により、職員の意見・提案を聴取して迅速な対応に努めている。現在は職員が不足気味であるが、管理者は職員間のコミュニケーションを密に図りながら、全員で協力しあって日々のケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気配りや思いやりに心掛けて働きやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	定期的な研修や指導を受けている		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	今はコロナ禍で出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者が話しやすい雰囲気を作り信頼関係を築き安心して生活出来るように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望を聞き安心して頂けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人や家族から話を伺い他のサービスが必要であれば対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人が出来ることは手伝っていただき寄り添い共感し支えあう関係を築けるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が出来ないが日頃の暮らしの様子を西谷山通信にて伝えたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて外出面会等はゆっくりと出来てない。	アセスメントや家族からの聞き取り、これまで生活していた病院・施設等からの情報により、馴染みに関する情報を共有し、関係が継続できるように支援している。電話、手紙の取り次ぎ、墓参り、家族同伴で専門科の受診等に対する支援を行っているが、外出は目的のみ済ませて寄り道せずすぐに帰ってくることをお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて利用者同志の関係を把握し支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にして必要に応じて相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握し言葉や表情に耳を傾けている。	利用者の思いや希望・意向は日頃の会話や表情・仕草等で把握し、家族にも確認しながら利用者本位のケアとなるように努めている。ホームでの生活に対する満足度ややりたいことについて尋ね、利用者の心身の状態や性格等も配慮しながら、意向に沿った個別支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの話を聞き情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の支援や他のスタッフからの情報申し送り等を通じて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議で意見やアイデアをだし計画を作成している。	本人や家族、職員、訪問看護師、主治医等、専門的意見を計画に反映させて、多職種間で各利用者の状況を確認し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。モニタリングを3か月毎に行い、年1回計画を見直して、利用者の望む暮らしの実現に向けて検討し、入退院等の状態変化時には十分に話し合い、臨機応変に見直した計画作成に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個別記録を通じて情報共有し実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応して柔軟な支援サービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容サービスなどの活用をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や家族との連絡を取り適切な医療を受けられる様支援している。	殆どの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、毎月の受診や往診、毎週看護師による健康チェックが行われ、医療連携体制が整備されている。定期的な受診には職員が付き添い、受診状況に変化があった場合は家族に連絡するなど情報伝達も的確に行われ、緊急時には主治医の指示を得ながら適切な医療が受けられるような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>一週間に一回医療連携を利用している。日常の変化に気づき相談し適切な看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際には安心されるように話を聞き病院関係者と情報交換し早期に退院できるよう支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設で出来る範囲の対応を行い家族と意見交換し今後の在り方や対応を共有できるように取り組んでいきたい。</p>	<p>「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に基づき、終末期の意思確認も含めて入居時に本人及び家族に説明し、同意を得ている。重度化した時点で再度本人・家族はもちろん、医師や看護師とも話し合い、家族の思いの変化を汲み取って可能な限りの支援・対応ができるように努めている。看取りの事例もあり、協力医療機関の看護師が職員の不安軽減のための研修を実施し、スキルアップを図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故時に対応できる実践力を身に付けるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に訓練を行いたいという時にそなえている。</p>	<p>「風水害・地震・火災対応マニュアル」を作成し、年2回夜間想定を含めて避難訓練を実施している。現在はコロナ禍で消防署や地域住民の参加協力は得られていないが、火災報知機の業者職員の協力を得ることができた。2階の利用者の避難方法について検討中であり、安全で確実な避難誘導ができるように努めていきたいと考えている。備蓄は水・米・カップ麺等を各ユニット毎に準備しており、懐中電灯・コンロ等も用意されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じた言葉かけや自尊心を傷つけないように対応している。	「プライバシー保護に関するガイドライン」において、特に食事・入浴・排泄等のケアの際や、居室・個人記録の保護にも十分配慮し、利用者の生活習慣や思いを尊重したケアの実践に取り組んでいる。接遇や個人情報保護に関する研修により理解を深め、利用者に対する声かけや言葉遣いにも気を付けて、職員間での意識共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の出来事や言葉から思いや希望を取り組み支えていけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせてその人らしさを尊重して過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問美容を活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いいただける事は一緒にに行い喜んで食べてもらえるように工夫している。	利用者の好みを献立に反映させ、職員が交代で一週間分の献立を作成する。利用者は発揮できる能力に応じて下ごしらえや盆・テーブル拭き等を手伝い、利用者と職員と一緒に食事を摂っている。現在外食は控えているが、行事食やおやつを作ったり、寿司を買ってくる等、食事を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時15時のお茶時間と入浴後の水分補給を行っている。お茶が苦手な方はスポーツドリンク等をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排便リズムに合わせたトイレ誘導をしたり声掛けして自立に向けた支援を行っている。	羞恥心やプライバシーを損なわないように配慮しながら声掛けや誘導を工夫し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者個々の状況に応じたケアの方法や排泄用品等の活用を介護計画に反映させて、排泄の自立に向けて適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらったり歩行運動の声掛け排泄チェック表にて把握して個々に応じた予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の体調に応じて入浴を楽しめるようにし入浴剤を使ったりと季節感を心掛けている。	高齢化や介護度上昇により、浴槽に入ることが難しくなっている利用者が多い。入浴は週3回、午前中に個浴で実施しているが、利用者の状況によっては清拭等に変更するなど、柔軟な対応が可能である。入浴剤や保湿剤も使用し、ゆず湯も取り入れて、シャンプー等は原則共用であるが個人用の使用も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的によりネンの交換や室温の管理をし本人のリズムに合わせて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し理解に努め支援を行っている。薬の変更時は申し送りノートにて全スタッフが把握出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を持っていただき喜びのある日々を過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で出来ていない。	現在はコロナ禍で、ドライブでコスモス見学に行ったり家族と一緒に病院受診する以外は、外出は難しくなっている。職員は利用者がホーム内で楽しく過ごせるように、ナツメロを流したりゲームや季節に合わせたお楽しみ会等を実施し、工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を預かり希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話が来たら本人と話そうに支援。また本人の希望があれば電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり壁には季節感のある物をはったりと季節を感じるように工夫している。	ホームの建物は木目調で温かみを感じられ、明るいろビングや清掃の行き届いた廊下、空気清浄機による空調等、細かい配慮がなされている。玄関には季節の花が活けられ、廊下には手作りの作品や写真等が飾られ、対面式キッチンでは調理の音や臭いがして、生活感のある家庭的な雰囲気の中でゆったりとくつろげる環境である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	居場所の工夫一人ひとりの思いのままに過ごして頂けるように工夫している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居時に使い慣れた品物を持参して頂いたり居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはエアコン・ベッド・タンス・パイプハンガー・洗面台が設置され、約3分の1は電動ベッドが導入されている。利用者は安心して落ち着いて過ごせるように、写真・時計・テレビ・コップ・仏壇・テーブル・いす等、馴染みのものを自由に持ち込み、居心地の良い環境づくりを支援している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	利用者一人ひとりに合わせ迷いが生じないように表札を設置したりと工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない